

# 肝線維化における新規血清マーカーとしての糖鎖(WFA-M2BP)の有用性の検討

## 【はじめに】

糖鎖とは、核質、蛋白質に次ぐ「第3の生命鎖」と言われており、生命活動の中で重要な役割を果たすと考えられています。近年、肝癌患者さんの術後再発や術後生存率に関わる予測因子として血液中のある種の糖鎖(WFA-M2BP)が有用だと報告されました。そのため、肝線維化の因子として、本糖鎖が有効となる可能性が考えられます。

## 【目的】

肝線維化の新たな診断方法としての血液中の糖鎖マーカー(WFA-M2BP)の有用性の確立を行います。

## 【対象】

九州大学病院第二外科において、2000年1月1日から2013年5月31日までに肝癌による肝切除および肝移植の手術を受けられた方の切除標本、血液検査検体、並びに肝移植ドナーになられた方の肝生検標本、血液検査検体のうち、約200名を対象に致します。

材料は、対象症例の血液検体のうち、すでに検査施行後の余剰サンプルを使用します。対象者となることを希望されない方は、下記連絡先までご連絡下さい。

## 【研究内容】

当九州大学消化器・総合外科(第二外科)において切除された肝組織の標本を使って肝線維化の診断(通常の臨床診断通り、新たな検体は必要ない)を、血液検査検体(検査施行後の余剰分)を用いて血中の糖鎖の濃度を測定します。その両者の相関を統計学的に解析します。同時に対象患者の非侵襲的肝線維化測定方法であるVTTQ値(術前のエコー検査の際に測定予定)、血液学的線維化マーカー(血清ヒアルロン酸値、血清コラーゲン値、血清APRI値:いずれも通常の臨床検査として測定予定)との相関に関しても後ろ向きに統計学的に解析する。

## 【患者さんの個人情報の管理について】

個人情報漏洩を防ぐため、九州大学大学院医学研究院消化器・総合外科学分野においては、個人を特定できる情報を削除し、データのデジタル化、データファイルの暗号化などの厳格な対策を取り、第三者が個人情報を閲覧することができないようにしております(連結不可能匿名化)。また、本研究の実施過程及びその結果の公表(学会や論文等)の際には、患者さんを特定できる情報は一切含まれません。本研究で得られたデータを別の研究に2次利用する可能性はありますが、その場合は改めてその研究計画を倫理審査委員会において審査し、承認を受けた上で利用します。また、データの2次利用は、改めて研究に関する情報をホームページで公開した上で行います。

【研究期間】 承認日から平成27年3月31日

## 【医学上の貢献】

この研究により肝線維化の評価が血液検査のみで行えることとなり、肝炎患者の治療選択に際して、確実な線維化を予測を通して、医学上の貢献があるものと考えます。

## 【研究機関・組織】

研究責任者: 医学研究院・消化器・総合外科学分野・教授・前原 喜彦

研究分担者: 医学研究院・消化器・総合外科学分野・准教授・調 憲

医学研究院・消化器・総合外科学分野・共同研究員・戸島 剛男

医学系学府・消化器・総合外科・大学院生・吉屋 匠平

医学系学府・消化器・総合外科・大学院生・松本 佳大

多施設共同研究:

独立行政法人産業技術総合研究所・統鎖医工学研究センター・センター長・成松久

独立行政法人産業技術総合研究所・統鎖医工学研究センター・診断薬開発促進班班長・久野敦

連絡先: 〒812-8582 福岡市東区馬出3-1-1 Tel 092-642-5466

准教授 調 憲(しらべ けん)